

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 12 日現在

機関番号：33302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22760475

研究課題名（和文） ローカル・リソースの集束による地域主義的まちづくり手法の展開

研究課題名（英文） The method for community development by utilizing local resources with localism.

研究代表者 内田 奈芳美 (UCHIDA NAOMI)

金沢工業大学・環境・建築学部・講師

研究者番号：10424798

研究成果の概要（和文）：本研究では、都市が市場のみに翻弄されず、限られたローカル・リソースを集束することでリスクを分散し、持続的な地域主義的まちづくりを行うことができるシステムを明らかにすることを目的とし、方法論を構築するためのスタディを行った。大都市、地方都市の両方にまたがった対象地域内でのアクション・スタディでは、実地のまちづくり主体との連携を行い、行政、専門家、住民の新しい集束のかたちを構築することを目指して、調査研究を行うことによって、まちづくり手法の方法論を明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）： In this research, I studied target areas to illustrate how people utilize “local resources” to revitalize community sustainably maintaining distance from market-driven economy. I worked with community both in big city (Tokyo) and local city (Hokuriku-region) to illustrate actual condition of community development with the local resources, and found that the method for utilizing the resources by government, professionals, and community.

### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：建築学

科研費の分科・細目：都市計画・建築計画

キーワード：まちづくり、地域資源

#### 1. 研究開始当初の背景

今後の日本において、人口減少に伴う地域・経済活動の縮小は避けられない。よって、そういった状況の中で社会としての都市の着地点を見つけるのは喫緊の課題である。こういった課題は地方都市のまちづくりにおいてすでに深刻化している。もっとも、地方都市と大都市間の人口成長率・高齢化率の差は、地域格差ではなく、時間差であり、問題としては同じ状況を抱えていると指摘して

いる論もあり、日本全国のどの規模の都市であっても、縮小の時代に合わせた、身の丈にあったローカル・スケールによる着地点を見つけ出すことが重要になっている。そのためには、他の地域に無い、その地域だけに存在する魅力である「ローカル・リソース」をいかに地域主義的に活用するかということが戦略的に重要である。これまでに「ローカル・リソース」の集束手法の核となるシステムとして、まちづくりファンドの全国的な調

査を行ってきており、その分析の結果として、資源の調達と分配のシステムは複雑化した。担い手とのミスマッチから、地域改善に直結していない現状があった。また、そういったまちづくりファンドを超えた方法論として、ローカル性と切り離せない市民事業の発展も日本での変化の兆しとして見られることも踏まえて、これらの人材やそれに属する記憶・技術・組織、及びローカル・ルールに則った資金リソースの提供、空間的地域資源も含み、これらをシステムの束ねることが今後の都市課題の解決へつながるとして、ローカル・リソースの集束方法を考えたまちづくりの方法論を研究するという着想に至った。

## 2. 研究の目的

本研究では、都市が市場のみに翻弄されず、限られたローカル・リソースを集束することでリスクを分散し、持続的な地域主義のまちづくりを行うことができるシステムを明らかにすることを目的とする。本研究でローカル・リソースとは、次のようなものを含むと定義する。

- (1) ローカルの資金（官民）：まちづくりファンドや民間の開発圧力、及びまちづくり会社などを成り立たせる自律的資金調達システム
- (2) ローカルの人材（属人的な記憶や技術を含む）：担い手や地域のキーマンなど。特に地方都市ではこれらの人的ネットワークがコンパクトに集束されている
- (3) ローカルの空間資源：公共空間や歴史的資源など

これらの三つのリソースを地域内でバランスよく束ね、持続的なまちづくりを担保するための方法論を構築した。事例調査については、諸外国の先進事例も調査を行うが、日本国内の事例を分類すると、以下のような地域に分類できる。

- (1) 市場非参入・撤退地域（縮小傾向が強い日本海側に位置する北陸地域の県庁所在地以外の自治体）：空洞化が進み、外的な開発圧力が小さい地域
- (2) 市場との対立・併存地域（北陸地域の県庁所在地、及びホットスポットとしての東京）：外的な開発圧力が強い、または地域内の中心性を強く持つ地域。巨大な公共事業投資を控えている地域も含む。

それぞれの特性を持った地域において、どのようなリソース集束の試みが見られるか、各自治体の政策・現状実態を明らかにして集束手法を分析し、方法論につながる法則を明らかにすることを目的とする。

本研究では、これまでばらばらに語られてきたローカル・リソースを用いた地域主義的まちづくりの背景と手法、それを形づくる要

素についての論の全体像を明らかにし、また、アクション・スタディを行うことで、まちづくりの現場での実践上の課題を反映した方法論が構築され、社会的に実用的な結果を得ることが出来る。

## 3. 研究の方法

本研究では、ローカル・リソースの集束手法に関する論の全体像を明らかにした上で、事例研究を行う。手法論を調査するために、文献調査を行う。

事例研究では、第一に集束「ツール」の事例、第二に地域に視点を置いた集束の事例調査を行う。事例の実態を明らかにした上で、評価軸による評価を行う。また、まちづくりを実際に支援している地域において、事例実態の評価と並行してアクション・スタディを行う。これらの研究から、方法論のまとめを行い、ローカル・リソースを集束した持続的な地域主義のまちづくりを行うためのシステムを明らかにする。

対象事例としたのは、大都市部では都市計画道路の事業決定を控えた地域であり、地域コミュニティのまちづくりにおけるアクション・スタディから、実態を明らかにした。地方都市は、北陸地方を対象とし、コミュニティとのアクション・スタディ、及び資源の実態分析から、ローカル・リソースを用いた地域主義的まちづくり手法の展開を明らかにする。

## 4. 研究成果

研究成果としては、次のようなかたちに整理できる。

まず、ローカル・リソースの集束のための手法論として、ニューヨークにおける地域主義を実証的に描いた著書を翻訳し、出版することが挙げられる。本書は、様々な地域の読み取り方、地域論を引用し、全体像としての地域主義に関する論説を含めて地域の変遷を描いていたことから、本研究における理論構築の軸となると考え、翻訳・出版を行った。また、本書のキーワードとして、地域まちづくりの新たな評価軸である「地域のオーセンティシティ」という概念を明らかにし、地域主義的なまちづくり展開における概念の位置づけをおこなった。

また、日本での事例として、地域性の高いまちづくり市民事業の事例の全体像を包括し、そこにどのような法則があるか、「まちづくり市民事業の協働関係（態勢）」として、共著の中で分析軸を設定した上で全体像をあきらかにした。その中で、「機能分化」「主体連携」「事業連鎖」「自律化」というリソースを集束したまちづくりの法則について明らかにした。また、地域における課題として「機能分化から生まれる地域展開」「地域資

源を束ねる専門家の存在」「パーソナル・ネットワークへの開放」「中間支援組織による支援」という点を分析し、指摘した。

次に、先進事例調査からの分析である。まず先進的地域の事例調査・評価として、まちづくり市民事業の実態を明らかにし、共著として出版した。この中では、シアトル市の「public development authority」という第三セクターとしてのまちづくり組織といった先進事例を分析し、まちづくりの中間支援組織としてのプースター組織の必要性など、分析軸の提示を行い、先進的事例の実態を明らかにした上で研究の全体の枠組みを明確にした。

また、その他論文としてとりまとめた成果として、以下のようなことを各地域で明らかにした。

#### (1)空洞化した地域の人的資源の集束：

空洞化が進む富山県富山市中心市街地のまちづくりにおける人的資源とネットワークの実態として、キーマンが仕掛けをつくり、その中で地域らしいまちづくりをネットワーク化して仕掛けてきた事例の実態分析をおこなった。

#### (2)空洞化しながらも、新幹線という外圧にそなえた地域の空間的資源の集束：

石川県金沢市中心部で、かつて城下町の中心的機能が位置していたが、その後地域的な位置づけが変化し、結果的に町家などの歴史的資源が駐車場をはさみながらまだらに残る地域を研究対象とし、その歴史的資源の空間的・位置づけ的な変遷と課題を明らかにした。その上で地域主義を考慮した場合のまちづくりシステムとしての補完すべき機能の提示をおこなった。

#### (3)空洞化した地域の人的、空間、資金的資源の集束：

富山県高岡市の歴史的な空間資源が残る地域において、地域資源の活用を考えながらも、観光地化や外部訪問者という外的圧力に対する抵抗感と生活の保全、歴史的空間と現代生活の両立、といった多様なバランス関係とまだらな思いをどのように集束させるかという点において苦慮している地域のまちづくりの実態を明らかにした。

最後に、アクション・スタディからの分析である。前述した分析軸のもと、すでに信頼関係が構築されている現場における実証的な研究を行った。

大都市部、地方都市の両方を対象地域として行ったが、その中では、次のようなことを行った。

#### (1)歴史的資源を持つ地域でのコミュニティのリソースに対する意識調査：

行政が地域資源の価値を最大化使用とする中で、住民が自分たちのもつ空間的資源に対する意識と生活実態とのズレをどのよ

うに感じているか明らかにした。

#### (2)資金的なリソースとまちづくり：

資金提供のありかたとまちづくりのプロセス、また、研究期間中に起きた東日本大震災における復興基金の可能性も踏まえながら、資金提供のあり方がつくりだす地域的な圏域についての調査・研究をおこなった。「地域マネジメントを支える資金調達手法とマネジメント圏域の形成」では、地域をまたいだ資金調達の実態から、空間を超えた部分での地域主義の可能性を論じた。

(3) 巨大な公共投資と市場の流入が地域意向と衝突する地域での集束手法：アクション・スタディとして、人的資源の集束手法の提示と実践、およびローカル・ルールを展開についての調査・分析・地域化をおこなった。具体的には、大都市部・東京都中野区における都市計画道路整備に伴う商店街のまちづくりの現場におけるアクション・スタディである。毎月の地域住民とのワークショップの中で、地域資源の集束方法として、様々な議論を行った。まず人的資源については商店街型のNPOを含む法人化の可能性、空間資源についてはまちづくりの全体の将来像の形成、地区計画や自主ルールによる空間づくり、及び商業空間としての魅力を議論することによって、外部資本が強力に流入する可能性が高い地域における地域資源の集束方法のあり方について議論をかさね、ルール化の方向性を定めた。また、資金的資源の議論について、地方都市とことなり、小規模資本が参入しにくい地域において、いかに独自の資金的自律性を担保し、マネジメントしていくかということについて、空き店舗活用も含め、議論を行った。これらのアクション・スタディから、地方都市とは異なる大都市部のまちづくりのための地域資源の集束方法論について明らかにした。

これらの全体的な成果から、各地域特性と地域資源のもつ外部的プレッシャーに応じた、資源の集束のための方法論の調査・分析を行った。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 内田奈芳美、ジェイコブス「後」の都市のオーセンティシティをめぐる闘い、季刊まちづくり 38号、査読無、2013、96-99
- ② 内田奈芳美、地区のオーセンティシティの読み取り方、日本建築学会大会(中部)地域まちづくり小委員会資料、査読無、2012、51-52
- ③ Naomi Uchida、Living in the center of local city and historic preservation, Takaoka city,

Japan、Preservation of historic city and planning (The International Symposium on Urban Planning 2011)、査読有、2011、119-128

- ④ 内田奈芳美、復興基金を活用した「地域化」させる弾力的支援、季刊まちづくり 32号、査読無、2011、34-35
- ⑤ 内田奈芳美、地域マネジメントを支える資金調達手法とマネジメント圏域の形成、季刊まちづくり 22号、査読無、2010、38-42

[学会発表] (計4件)

- ① 内田奈芳美、地方都市中心市街地内の「狭間の地域」の将来像、日本建築学会大会、2011年8月25日、早稲田大学、東京都
- ② 牧野俊崇・中川俊之・内田奈芳美、金沢市新町における都市の代謝による地域再生プログラム、日本建築学会大会、2011年8月25日、早稲田大学、東京都
- ③ 村井美沙、内田奈芳美、ネットワーク型まちの駅の可能性：富山市中心市街地での試みから、日本建築学会北陸支部大会、2011年7月10日、福井工業大学、福井県
- ④ 内田奈芳美、地方都市中心市街地における歴史的資源と生活環境への思い、日本建築学会大会、2010年9月9日、富山大学、富山県

[図書] (計2件)

- ① シャロン・ズーキン著・内田奈芳美・真野洋介訳、講談社、都市はなぜ魂を失ったか、2012、382
- ② 佐藤滋編著・内田奈芳美他、学芸出版社、まちづくり市民事業、2011、291

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

内田奈芳美 (UCHIDA NAOMI)

金沢工業大学・環境・建築学部・講師

研究者番号：10424798

